

第 49 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和6年11月6日（水）10：00～12：00
- 場所：JR東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区 街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・鉄道博物館 学芸部 ・JR東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第48回委員会（10/2）部会②議事録案
- ・ 資料2：第48回委員会（10/2）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1～5：調査結果について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 49 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 48 回委員会 (10/2) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 48 回委員会 (10/2) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 49 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査結果について

- 資料 1～3 について説明する。(港区)

・〈説明概要〉

- 資料 1 の調査位置図の緑枠で示す箇所について工事の判断をいただきたい。オレンジ枠の部分については調査中だが支障物が出現したということで報告する。

- 資料 2-1 に KP25 ラインの 3 箇所のボーリング・ライナー試掘調査の結果を示す。このラインでは構造物等は検出されなかった。

- 概ね 18～19 世紀のものとは判断できる出土遺物の観察結果と併せて、茶系色で示す土層が薩摩台場の土層と推定している。

- KP25-2 に示す灰色粘土層が薩摩台場の上に分布する浚渫土の土層となる。

- 自然堆積層の高さもこれまでの調査結果と同様の深さになる。

- 資料 2-2 に KP26 ラインの 3 箇所のボーリング・ライナー試掘調査の結果を示す。

- KP26-2 のライナー 4 段目設置時に、その外側から甕の一部が出土した。江戸ではあまり見かけない形状であり、可能性として薩摩焼のものと考えられるため、引き続き関係者に確認していく。

- 薩摩焼の可能性のある甕は、残存率は高く、検出状況を把握する限り、甕が据えられていた可能性も考えられ、ライナー 4 段目付近が薩摩台場の上面付近である可能性も考

えられる。

- 資料 3-1～3 にボーリング調査結果について示す。資料 3-3 で第 48 回の資料を再掲する。こちらの工事可否についてお伺いが漏れていたため、併せて判断いただきたい。
- 興味深いのは江戸時代の遺物である。これらが薩摩台場の層に含まれるため、T.P.+2.0m 辺りが薩摩台場の上端と考えると良さそうである。(委員長)
- 薩摩台場の盛土層をパックする形で上に灰色粘土が堆積していると考えられるが、いずれ全体の調査結果を踏まえて解明されることが期待される。(委員長)
- 構造物は検出されなかったので、仮橋脚、仮土留の打設は可と判断したい。(委員長)
← 意義なし。(委員一同)
- 資料 4 について説明する。(港区)

<説明概要>

- KP23-3 のライナー 4 段目で検出された木材であるが、砂利が多く混在する粘土層で埋められており、その上にエフレックス管が敷設されていた。
- 工事関係者の意見では、寸法・規模的に分岐枕木ではないかということであり、港区としてもそう考えているが、現時点では遺物と捉えている。
- 据え付けられたのではなく、投げ捨てられたという印象が強い。
- 今後この遺物を取り上げたいと考えるが、線路等安全確保のため切断もあり得るため、取り扱いの判断を仰ぎたい。
- 以前、同様に加工木の検出があったが、それに比べると、現時点で今回の木材をそのような遺構の一部と判断することは、難しいと思われる。引き抜くことが望ましいが、安全上の問題があるのであれば切断もやむを得ないとする。(委員長)
- 杭の施工位置を工夫して切断しない施工としたり、仮土留施工後に改めて確認したりすることはできないのか。(古関委員)
← JR とも検討しているが、今のところライナー内を切削しないと施工できない状況である。ライナー外は残置できるので、仮土留打設後に確認することはできるという説明を受けている。(港区)
- 木材について全体を取り上げて確認するか、場合により一部切断して取り上げることを委員会として承認したい。(委員長)
← 意義なし。(委員一同)
- 資料 5 について説明する。(港区)

<説明概要>

- ロ元管調査で検出された松杭を引き抜いて確認した。
- 竣工図記載の杭の長さより若干短い、杭頭がボロボロになっている印象であり、施工時か施工後に短くなったものではないかと想定している。

- 杭径や打設位置は竣工図と合致しており、竣工図にある松杭と解釈している。
- 竣工図に示される松杭で間違いないが、線路方向の配置間隔を知りたい。(小野田委員)
 - ← 概ね1 m 前後である。(港区)
 - 竣工図の3フィートの表記と概ね一致するので、間違いないだろう。(小野田委員)
- 引き抜いた木材はどうするのか。(小野田委員)
 - ← 港区において、詳細に計測して記録に残したのち、サンプリングを行ったうえで廃棄を考えている。(港区)
- 資料1の試掘箇所でも今後もこの間隔で杭位置付近の調査を行うのか。(小野田委員)
 - ← その通りであり、今後も検出される可能性はある。(港区)
- 竣工図は私が公開を求めたもので、認めていただき感謝する。(古関委員)
- 松杭の考察は矛盾点がないか、松杭の位置に対して当時の京浜東北線の線路が現在の線路位置と同じだったかどうか、ホーム位置の変更がなかったかを調べ、矛盾がないことを確認してもらいたい。(古関委員)
 - この点は今後対応してもらいたい。(委員長)
- この松杭の調査方法は高輪築堤の群杭に準じて、きちんと計測してデータを取っていくことを検討してほしい。(委員長)

(3) その他

- 本日の議論、意見をいただき感謝する。連日の港区の調査、資料のとりまとめにも感謝する。引き続きしっかりと対応していきたい。(JR)

＜全体会・部会①・部会②・部会③終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 部会①について、5・6街区の調査を港区にしっかり進めてもらいたい。部会②の東海道旧護岸は、保存状態から考えて記録保存でやむを得ない考える。(文化庁)
 - ← 文化庁と同意見であり、特に付け足すことはない。(東京都)
 - ← 部会①について、11月8日に公開予定の確認調査速報について補足する。確認調査報告資料について「JR 東日本の協力を得て」という文言を追記すべく、資料内容を調整する。調査主体は港区教育委員会だが、令和3年5月11日に「現地保存を考慮した開発計画を要望する」という要望書を提出している立場で、見学会を主催する。発見された築堤が今後残るのかどうか、といった問い合わせにどう回答するか、非常に心配しているところである。先日、4街区のまちびらきについてプレスリリースもされ、プロジェクト全体への関心も高まっており、そのような中で12月8・9日に見学会を実施すべく、JRと調整中である。見学会のプレスリリースも次回委員会までに調整したく、この1カ月は非常に重要な局面であると考えている。(港区)

(4) 閉会

- 次回委員会は 12 月 4 日(水)10 時 00 分から、会場は TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第49回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 2つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料1～3について説明する。資料1の調査位置図の緑枠で示す箇所について工事の判断をいただきたい。オレンジ枠の部分については調査中だが支障物が出現したということで報告する。また、田町駅の構造物と思われる松杭の考察についても併せて報告する。資料2-1にKP25ラインの3箇所のボーリング・ライナー試掘調査の結果を示す。このラインでは構造物等は検出されなかった。概ね18～19世紀のものと同様と判断できる出土遺物の観察結果と併せて、茶系色で示す土層が薩摩台場の土層と推定している。出土遺物は瓦片やとっくり片等で2～4段目から検出された。KP25-2に示す灰色粘土層が薩摩台場の上に分布する浚渫土の土層となる。自然堆積層の高さもこれまでの調査結果と同様の深さになる。資料2-2にKP26ラインの3箇所のボーリング・ライナー試掘調査の結果を示す。新規に報告する内容はKP26-2で、KP26-1・3については以前の考察の修正となる。KP26-2のライナー4段目設置時に、その外側から甕の一部が出土した。甕の内側に黒色の付着物が確認されており、口縁部と外側の体部にも微量に

確認されたが、広範囲に付着しているのは内部のみである。1/2以上遺存しており、胴部最大径 37cm、口縁内径 23cm、高さ 27cm（遺存範囲）になると想定している。江戸ではあまり見かけない形状であり、可能性として薩摩焼のものと考えられるため、引き続き関係者に確認していく。薩摩焼の可能性のある甕は、残存率は高く、検出状況を把握する限り、甕が据えられていた可能性も考えられ、ライナー4 段目付近が薩摩台場の上面付近である可能性も考えられる。遺構の中の覆土を掘っているような印象もあるため、所見は変わる可能性もあるが、薩摩台場の内部であることは概ね確実である。資料 3-1～3 にボーリング調査結果について示す。仮土留のラインにあたるボーリングは、赤字で示した 4 箇所となる。茶系色で示す土層が薩摩台場の盛土と推定しており、構造物等は検出されていない。資料 3-3 で第 48 回の資料を再掲する。こちらの工事可否についてお伺いが漏れていたため、併せて判断いただきたい。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) KP25・26 の調査報告であったが、興味深いのは江戸時代の遺物である。これらが薩摩台場の層に含まれるため、T.P.+2.0m 辺りが薩摩台場の上端と考えて良さそうである。薩摩台場の盛土層をパックする形で上に灰色粘土が堆積していると考えられるが、いずれ全体の調査結果を踏まえて解明されることが期待される。構造物は検出されなかったため、仮橋脚、仮土留の打設は可と判断したい。

(委員一同) 異議なし。

(港区) 資料 4 について説明する。KP23-3 のライナー 4 段目で検出された木材であるが、砂利が多く混在する粘土層で埋められており、その上にエフレックス管が敷設されていた。工事関係者の意見では、寸法・規模的に分岐枕木ではないかということであり、港区としてもそう考えているが、現時点では遺物と捉えている。据え付けられたのではなく、投げ捨てられたという印象が強い。この支障物のため、この地点の調査はストップしている。今後この遺物を取り上げたいと考えるが、線路等安全確保のため切断もあり得るため、取り扱いの判断を仰ぎたい。

(委員長) 構造物の基礎として据え付けたとすると、上面がフラットであると思うので投げ捨てられたような状況かと考えている。以前、同様に加工木の検出があったが、それに比べると、現時点で今回の木材を遺構の一部と判断することは、難しいと思われる。引き抜くことが望ましいが、安全上の問題があるのであれば切断もやむを得ないとする。

(古関委員) 杭の施工位置を工夫して切断しない施工としたり、仮土留施工後に改めて確認したりすることはできないのか。

(港区) JR とも検討しているが、今のところライナー内を切削しないと施工できない状況である。ライナー外は残置できるので、仮土留打設後に確

認することはできるという説明を受けている。

(委員長) 他になければ、木材について全体を取り上げて確認するか、場合により一部切断して取り上げることを委員会として承認したい。

(委員一同) 異議なし。

(港区) 資料5について説明する。口元管調査で検出された松杭を引き抜いて確認した。ほぼ切断することなくきれいに取り上げられた。竣工図記載の杭の長さより若干短い、杭頭がボロボロになっている印象であり、施工時か施工後に短くなったものではないかと想定している。杭径や打設位置は竣工図と合致しており、竣工図にある松杭と解釈している。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(小野田委員) 竣工図に示される松杭で間違いないが、線路方向の配置間隔を知りたい。

(港区) 概ね1m前後である。

(小野田委員) 竣工図の3フィートの表記と概ね一致するので、間違いないだろう。

(小野田委員) 引き抜いた木材はどうするのか。

(港区) 港区において、詳細に計測して記録に残したのち、サンプリングを行ったうえで廃棄を考えている。

(小野田委員) 資料1の試掘箇所でも今後この間隔で杭位置付近の調査を行うのか。

(港区) その通りであり、今後も検出される可能性はある。

(古関委員) 資料5の竣工図は私が公開を求めたもので、認めていただき感謝する。更なるお願いとして、松杭の考察は矛盾点がないか、松杭の位置に対して当時の京浜東北線の線路が現在の線路位置と同じだったかどうか、ホーム位置の変更がなかったかを調べ、矛盾がないことを確認してもらいたい。

(委員長) この点は今後対応してもらいたい。

(委員長) この松杭の調査方法は高輪築堤の群杭に準じて、きちんと計測してデータを取っていくことを検討してほしい。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(JR) 本日の議論、意見をいただき感謝する。連日の港区の調査、資料のとりまとめにも感謝する。引き続きしっかりと対応していきたい。

(委員長) 他になければ部会③を閉会する。

<全体会・部会①・部会②・部会③終了後>

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 部会①について5・6街区の調査を港区にしっかり進めてもらいたい。

部会②の東海道旧護岸は、保存状態から考えて記録保存でやむを得ないと考える。

(東京都)

文化庁と同意見であり、特に付け足すことはない。

(港区)

部会①について、11月8日に公開予定の確認調査速報について補足する。確認調査報告資料について「JR 東日本の協力を得て」という文言を追記すべく、資料内容を調整する。調査主体は港区教育委員会だが、令和3年5月11日に「現地保存を考慮した開発計画を要望する」という要望書を提出している立場で、見学会を主催する。発見された築堤が今後残るのかどうか、といった問い合わせにどう回答するか、非常に心配しているところである。先日、4街区のまちびらきについてプレスリリースもされ、プロジェクト全体への関心も高まっており、そのような中で12月8・9日に見学会を実施すべく、JRと調整中である。見学会のプレスリリースも次回委員会までに調整したく、この1カ月は非常に重要な局面であると考えている。

(4) 閉会

(事務局)

次回の定例委員会は、12月4日(水)10時00分から、会場はTKPガーデンシティ PREMIUM 品川を予定する。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以 上